

TYPE OF
INDUSTRY

不撓不屈

ふとうふくつ

自然の力を信じて

弁当を片手に山に入る。手当たり次第に植物をサンプルとして採取して研究所に持ち帰る。写真を撮って記録し、すりつぶして成分を抽出しては効果を試験する。また山に入っては新たな植物を採取する。沖縄で副作用のない抗がん剤開発を目指す根路銘国昭には、そんな日々が待っていた。

生物資源研究所

③

76番目のセンダン

現在は生物資源研究所（沖縄県名護市）の社長

であり所長として研究を

母校に異例の施設
2001年、帰郷した

指揮する根路銘。恩師の
がんによる死と葉の副作
用の苦しみを目にし、60
歳を越えてから、専門だ
ったウィルス分野ではな
く、がん研究を志した。

抗がん剤開発を決断し
た後、拠点は沖縄に置く
ことを固く決めていた。
副作用をなくすには天然
原料を使う必要があると
考えており、故郷・沖縄
の亜熱帯の豊富な自然が
資源になると思ったから
だ。

抗がん剤開発を決断し

まずは素材探しを始め



温暖な地域に自生する落葉広葉樹センダンの葉

た植物を片っ端でいた。76番目のサンプルから採取している、それが落葉広葉樹のく、本人いわくセンダンだった。

「シヨットガン方式を選んだ。

マウス実験で光明

採取と試験を
繰り返して2年
ほどが経過し、
目を引く結果が
出た植物があっ
た。それまでも

採取と試験を

繰り返して2年

ほどが経過し、

目を引く結果が

出た植物があっ

た。それまでも

手当たり次第に植物試す

た。根路銘に植物の知識
が特段あったわけではな
い。民間伝承などを頼り
るたびに新たに目につい
し、その結果は群を抜い
立。再スタートを切る。

根路銘は最も効果の高
かったセンダンの研究を
続けた。しかし、がん細
胞を移植したマウスに、
経口でセンダン抽出液を
投与したところ肝臓から
大量に出血した。失敗だ
った。

（敬称略）

中小企業・地域経済